

第4回「新・ほっかいどう社会資本整備の重点化方針」有識者検討会 議事概要

- 1, 日時：令和5年2月7日（火）16：00～17：00
- 2, 場所：道民活動センター（かでの2・7） 730会議室
- 3, 出席者：[委員] 小磯修二委員、関口麻奈美委員、高橋清委員、
村上正恵委員、村上裕一委員
[事務局] 計画局長 上田晃弘、社会資本・強靱化担当課長 上前孝之、
課長補佐 松本大志、社会資本整備係長 前川晃一
- 4, 議事次第
 - (1) 開会
 - (2) 議題
 - ① 新・ほっかいどう社会資本整備の重点化方針改訂（案）について
 - ② その他
 - (3) 閉会
- 5, 議事及び主な発言内容（委員からのご意見）

（高橋清委員）

- ・ 改訂（案）については、色々と検討し、良くまとまっていると思う。
- ・ 今後、この方針をどのように実行していくのかを考えることが大切であり、そのためには、わかりやすいメッセージを発信していくことが必要。本方針の優先順位をつけるというロジックはわかりやすいと思う。また、「どのように社会資本を整備していくのか」ということと、「本方針をどのように使っていくのか」をこの検討会でしっかり議論したことを、特に役所の若い方々に説明していただきたい。
- ・ 今回の改訂は、あくまでも決められた社会資本の中で、優先順位を付けていくものだが、次回に向け、社会資本のあるべき姿を見据えながら、どんな社会資本を新たに追加していくのか議論していただきたい。

（村上正恵委員）

- ・ 用語解説を見ると、新たな用語が多く追加されており、この5年間でずいぶん流れが変わってきたと感じるとともに、これだけ今回の改訂（案）に盛り込めたと実感している。そういった意味でも今回の改訂で、きちんと方針のブラッシュアップができたのではないか。
- ・ 今回、社会資本の多目的・多機能化について議論があったが、これまで重点化を分野という形で考えていたものが、今後、社会資本は、色々なものを合わ

せてマルチにどう機能を発揮していくかを見据えながら見直していくことによって、更に効率的なものになっていくのではないか。

- ・ 本方針では、維持管理・長寿命化などを「最優先」に取り組むべきものとして優先度の対象外としているが、最近では老朽化も進行してきており、全てに対応することが難しくなっている。維持管理や長寿命化は非常に重要で、別の計画で計画的に取り組んでいるという記載を加えてはどうか。

(村上裕一委員)

- ・ 改訂(案)には、これまでに議論した内容を十分に反映していただいていると思う。
- ・ パブリックコメントでは、貴重なご意見を多くいただいたが、本方針では、きちんと基本思想を説明した上で、ある程度、優先順位やメリハリを付けていく必要がある。
- ・ 現在、国を中心に地方の行政の電子情報システムの共通化・標準化、クラウド化が議論されている。将来、社会資本の定義にバーチャルなものも含んでいくとすると、なおさら、デジタル化に優先的に取り組んでいく必要がある。
- ・ 大雪は、交通ネットワークの維持管理の問題であると同時に、防災や物流の問題でもある横断的なテーマであり、本方針を実際の施策にどう反映させていくのか、生活者としては最も切実で興味のあるところ。道外への情報発信も重要だが、雪害発生時の情報発信の充実も重要になるのではないか。
- ・ 今後、本方針に実効性を持たせるべく、道職員への周知法や予算などへの反映法を考える必要がある。

(関口麻奈美委員)

- ・ 改訂(案)について、短い期間でよくまとまっている。
- ・ 用語解説に新たに追加した用語を見ると、この5年間の社会の変化を強く感じるとともに、これまでにない気象災害の発生や新型コロナなどいろいろなことが起こっていて、改訂するタイミングも適切であったと思う。
- ・ パブリックコメントに関して、ホームページアクセス数が前回に比べてかなり伸びており、また、前向きな意見もあつて良かったのではないか。
- ・ 最終的に改訂したら、方針の「概要版」も作成すると思うが、「概要版」にも今回の改訂のポイントを盛り込めると良い。

(小磯修二委員)

- ・ 多機能・多目的について、「どのように社会資本の機能の多様化を重点化の考え方に組み込んでいけば良いのか」というかなり難しい命題が提示された

と思う。これからの社会資本整備の重点化の大きなテーマになるのではないか。引き続き、多機能化を見える形にしていくことにチャレンジしていければ良い。

- 本方針を進めていく上で、特に道庁のような大きな組織では、内部を巻き込んで、組織の中により幅広く浸透させることによって、良い意味での強い政策にしていくことが重要。
- 21世紀になって長期計画は、ビジョンといった裏付けのない定性的な政策を議論する傾向にある中で、本方針は、社会資本を限られた財源のなかでどう進めていくのかという議論をする「政策的なツール」でもある。今後に向け、社会資本整備をめぐる情勢変化の中で、重点化方針のもつ政策的な意味は何なのかということを経験し、確認しながら進めていただきたい。